
 *
 *
 *
 * 文化財ニュース
 *

第18号

発行 加古川市教育委員会
 編集 加古川市文化財審議委員会
 加古川市加古川町北在家23の1
 TEL (24) 1151

鶴林寺 太子堂で

国宝級の壁画が 発見されました

私たちの郷土の誇りである鶴林寺は、播磨の法隆寺として、聖徳太子創建の名刹として、全国的に名高いお寺です。この鶴林寺の国宝太子堂内で、又々国宝級の壁画が発見されました。

これまで太子堂内には、来迎壁（須弥壇（しゅみだん）の後にある板壁）に涅槃（ねはん）図が描かれ、周囲の小壁にたくさんの方さんが描かれていることは記録や伝承でわかつっていました。そこで、塔頭寺院宝生院副住職の幹栄盛さんが、この図を赤外線写真で撮影したところ、肉眼では見えない部分まで、はっきり絵柄が浮き出てきました。

このことが報道関係者に伝わり、テレビや新聞などで発表されるきっかけになりました。

その後、国立奈良博物館より正式に学術調査したい旨申し出があり、3月3日に倉田館長、岡崎学芸課長他6名の専門家が、長時間にわたって詳細に調査、写真撮影等を行ないました。その後、幾度も鶴林寺へ足を運ばれ写真撮影（赤外線写真で、高度の撮影技術を要し、専門家といえども一度や二度では、正確な写真撮影ができないため、長期の調査期間を要しました）をされた結果、ようやく来迎壁の壁画についての結論が出され、4月15日に倉田館長、岡崎学芸課長が鶴林寺で、正式に調査結果を発表されました。しかしながら、堂内全体の壁画についてはまだ充分な調査がなさ

れていないため、特に来迎壁の涅槃図、来迎図のみについての結論で、周囲の小壁等の壁画についての研究は、まだ今後にもちこされています。ここで、来迎壁に描かれた来迎図、涅槃図についての調査結果をご説明いたします。

来迎壁正面に描かれた来迎図

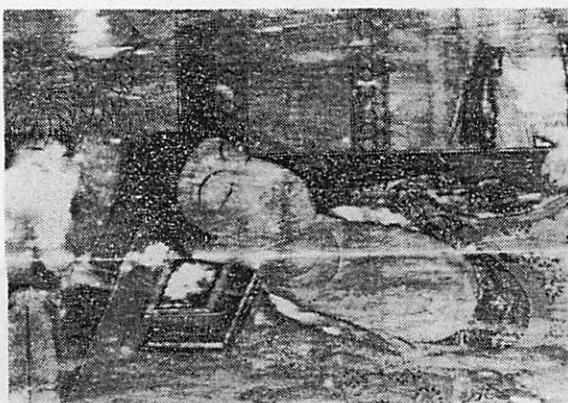


来迎図の一部分

は、縦1.7m、横1.9mの壁面全体に、絵巻物風に十図にわけて九品（ほん）来迎が描かれています。九品来迎とは、往生した人が極楽へ迎えられるときに、現世の行ないや修行の程度で、九つのランクに分けられる（上品上生から、下品下生まで）ことで、その九例のお迎えの姿がここに描かれているのです。

まず、左上隅に阿弥陀如来が観音、勢至その他の従者をしたがえた本格的な来迎仏が描かれ、最後には往生者を極楽へ連れて還られる「還来迎仏」まで、その間に説話的な手法で風俗画風に、1人ひとりを生き生きと、そしてのびのびと大胆に、楽しく表現しながら描かれています。

この絵柄では、当時の庶民の風俗をよく現わしており、風俗画としての価値も高く、また戯画的な要素もたくさん含んでおり、この点でも他に例がないといわれています。戯画や風俗の面では、庶民に極楽へ行くためにはしてはならないこととして、殺生（鳥かいのししをぶらさげて歩く姿や、漁をする姿）、放火（タイマツでお堂の軒に火をつけようとしている姿）、破壊（石塔にのぼって壊そうとする者、これを馬上からけしかけているのか、止めているのかわからない騎馬武者など）をいましめるような絵柄が各所に描かれています。



涅槃図の一部分



来迎図の一部分

います。

このように、この来迎壁には宇治平等院鳳凰堂の国宝の扉絵（天喜元年、1,053年）でしか確認されていない九品来迎が描かれており、仏教美術史上三番目の発見として奈良博物館でも倉田館長以下全力をあげて調査研究に努力してくださいました。

次に涅槃図について説明します。

涅槃図とは、お釈迦さんが天寿を全うして、すべての煩惱をなくし、高い悟りの境地に達して、バッタ川の川べりの沙羅双（さらそう）樹の下で、摩耶夫人（まやぶにん）や弟子たちに見守られながら、涅槃に入られるようすを絵にしたもののが『涅槃図』と呼ばれているものです。

この涅槃図は、涅槃像が箱枕をして上を向き、横一直線に横たわっておられ、両足をピンと上向けている像が描かれ、周囲でこれを見守る弟子、諸菩薩、女人等の像も1人ひとりが大きくのびのびと描かれ、しかも登場人物が約30人位と少ない。鎌倉以後のものは登場人物も多くなり、したがって1人ひとりが小さくなり、鳥や獣までもがなげき悲しむ姿が描かれるようになりますが、この絵の菩薩の顔は悲しい顔ではなく、むしろ沈静な表現であり、弟子たちのなげき悲しむ姿も、あまり極端ではありません。

このように構図としても、高野山金剛峯寺の国宝の涅槃図（掛軸で応徳3年、1,086年、今から890年前）に近いもので、藤原仏画の基準作といえます。しかも鶴林寺のものは壁画として描かれており、仏画として本格的なものです。

鶴林寺太子堂は、天永3年、1,112年（864年前）に修理された時の銘があり、実際の建築はこれより古いためと思われますが、一応、銘の年号を建築年次としても今から864年前、平安時代後期（藤原時代）の建築であり、ここに描かれている来迎図や涅槃図も、筆法や

構図等から考えて、間違いなく平安時代後期の仏画であると考えられるので、この太子堂が建てられた時に描かれたものと思われます。

また、構図や筆法等から見て、この絵は当時の都のある絵仏師の筆になるものと考えられます。（当時は都の大きな寺院には、専属の絵仏師（仏画を描く人）や彫仏師（仏像を彫刻する人）を置いていました。）

また、この来迎図と涅槃図は、別の絵仏師の作と考えられます。

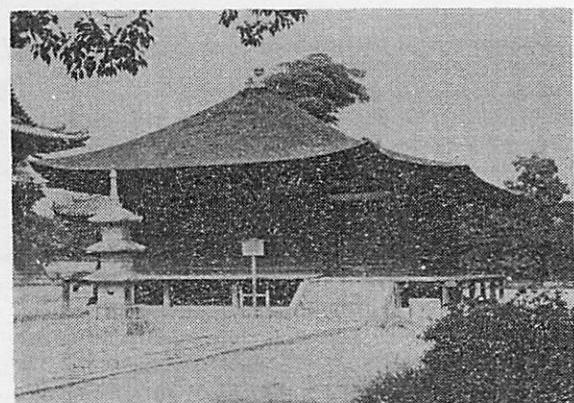
現在のところ、これら来迎図、涅槃図とも煤煙に覆われ、肉眼では何が何だかわかりませんが、赤外線写真では細い線まで克明に確認され、今描いたものかとさえ思うほどはっきりしているので、倉田館長らは国宝級の壁画であると断定されています。

もちろん、建物はこの壁画も含めて国宝に指定されておりますが、壁画だけ別に美術品として国宝指定されることもあります。（宇治平等院鳳凰堂、富貴寺等では、建物と壁画と別々に国宝に指定されています。）

その他、須弥壇の四隅の四天柱にも菩薩が描かれており、周囲の小壁には飛天の姿が描かれています。堂の周囲の小壁にも四方仏を中心にして、各面に千体仏が描かれています。

これらの壁画も、来迎壁の来迎図や涅槃図と同じくこの太子堂が建てられた時に描かれたものと考えられます。平安時代後期、今から864年前の太子堂は建物としては小さなお堂ですが、内部には極彩色の壁画が描かれ、須弥壇には現在重要文化財に指定されている釈迦三尊像がまつられ、中天にはこれも重要文化財の仏天蓋が吊るされるなど、藤原文化で埋めつくされた、まさに豪華で荘厳なお堂であったことが想像されます。

この太子堂は、本堂の東側にあって南面して建っています。四方とも柱間3間、方形造り檜皮（ひわだ）葺頂上に宝珠、露盤を置き、前面に一間の庇（ひさし）



国宝太子堂

を出しています。軒の出は深く、尾根勾配はゆるく、軒の反りと共に豊かに大きく反り、優雅でおおらかな感じを見せてています。この屋根の流れの豊かなひろがりに対して、頂上に置かれた宝珠、露盤は逆に小さく造られて、このために全体の屋根が極めて美しい調子を見せてています。この調子も、平安朝建築に示されている独特のものです。この美しい屋根の流れが四方にひろがり、深い軒となってさし出たところ、樋をもってこれを受けています。この樋の長さ、太さが軒の深さと荷重に対して悠々たる余裕ある比例を示しているのも、当代の建築様式に見る大きな特色の一つです。

このように、内部に国宝級の壁画が発見され、修理銘とはいえ天永3年(1112年)の銘があり、外見上も優雅な平安朝の姿を示す太子堂は、兵庫県下最古の木造建築であり、国宝中の国宝として、郷土の誇りとして、今後共大切に護っていかなければなりません。

【郷土資料館が】 【オープンしました】

待望の郷土資料館が、旧図書館跡の施設でオープンしました。

市教育委員会では、市内の各遺跡から出土した考古資料や、私たちの祖先が日常生活用具として、また農耕等の生産用具として使用してきた民俗資料(民俗文化財と呼ばれるようになりました)を展示し、保存する施設として、早くから郷土資料館の設置を計画しておりましたが、このたび、旧図書館跡(初めは市議会の議場棟として建築された建物)の施設で、1・2階には民俗資料、3階には考古資料を展示して、一般に公開することになりました。

1階の展示室には、市内で最大級といわれていた大野の屋台(ふとん太鼓)や、溝之口遺跡(弥生時代中期以降の遺跡)の模型など、大型の資料を展示しております。

2階の展示室には、日常の生活用具や農耕等の生産用具などの民俗資料を展示しております。特にこれらの民俗資料は、市民の皆さんからご寄贈いただいた貴重な資料であり、実際に自分たちの手で使用してきた身近なもので、なつかしい郷愁を覚えるようなものばかりです。

3階の展示室には、市内の各遺跡から出土した考古資料を展示しております。加古川市は加古川の清流に恵まれ、肥沃な沖積平野が広がっているので、古代から多くの人が住んでいたため、多数の遺跡が残されています。これらの遺跡から出土した考古資料の中には

全国的にも出土例の少ない貴重品もあります。

先土器時代の遺跡では山之上、城山、日岡山、新菱池遺跡など遺跡台帳には4か所より登載されておりませんが、個人的にその他のところで先土器時代の旧石器を採集した人があるように聞きますので、10,000年以上昔から市内のあちこちで、すでに人間が生活していたことがわかります。教育委員会でも、平岡町山之上の潰目池改修の機会をとらえて、旧石器を採集しま



2階民俗資料展示室

たのでこれまでの展示資料の上に、先土器時代の資料を追加することができました。

縄文時代に入って晩期の遺跡として西神吉町岸、八幡町上西条宮山遺跡などが出てきます。

弥生時代にはいると遺跡の数もふえ、前期のものは東神吉遺跡、砂部遺跡など、中期になって住居跡が発見された加古川町溝之口遺跡、平荘町平山遺跡、後期になると神吉、今福、中西、壺棺が出土した下村大

収蔵している民俗資料一覧

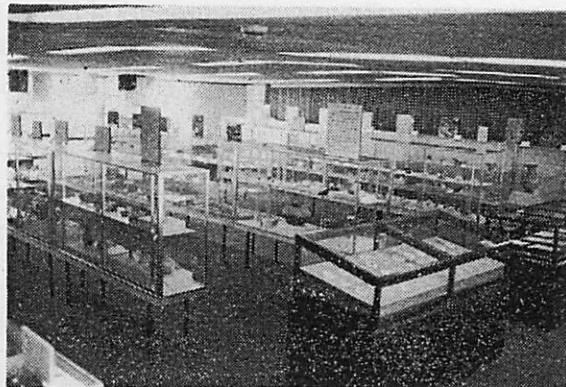
—S51年4月1日現在—

分類	種類別	数量	分類	種類別	数量
衣・食・住	家 具	17	交 易	通 行 旅 具	2
	灯 火 用 具	16		通 輸 信 運 搬 具	4
	調 理 ・ 飲 食	40		商 業 用 具	7
	衣 服	8		計 算 ・ 計 量 具	20
	履 物	2		鑑 札 ・ 看 板 類	2
	装 身 具	15		証 書 ・ 手 形 類	5
	裁 縫 用 具	5		印 章 類	1
生 产	農 具	210	民 俗 知 識	教 育 用 具	5
	山 樹 用 具	4		保 健 具	8
	漁 捕 用 具	12		計 時 用 具	4
	畜 產 用 具	1		育 児 用 具	1
生 業	紡 織 用 具	17		祝 用 具	3
	工 匠 用 具	11		葬 送 用 具	2
	諸 職 用 具	85		火 器 類	3
			合 計 510 点		

日山遺跡、唯一の銅鐸出土の望塚や、西条52号墳などがあります。

古墳時代になって、前期では長慶寺古墳、東車塚、天坊山古墳など、中期になると国史跡の西条古墳群の行者塚、人塚、尼塚をはじめ、日岡山古墳群がつくられ、後期になって古墳の数も爆発的に増加します。

ここに展示している民俗資料や考古資料は、学校教育や社会教育の貴重な生きた学習教材でもあります。これらの資料を観賞することによって、祖先の生活をしのぶとともに、学習のよすがとしていただければ幸いです。



3階考古資料展示室

展示している主な考古資料の出土遺跡と品目

時代区分	遺跡名	資料名	時代区分	遺跡名	資料名
先土器時代	山之上遺跡	旧石器(ナイフ型石器、刃器等)	古墳時代 前期	長慶寺山古墳	鏡(内行花文鏡) 鉄器(鉄刀、鉄斧、鉄鎌など)
縄文時代晚期	岸遺跡	土器 石器(石鎌、たたき石等)		東車塚	鏡(三角縁二神二獸鏡他) 石剣
弥生時代 前期	東神吉遺跡	土器 木器(木鍬等) 石器(石斧、石庖丁、石鎌等)		天坊山古墳	鏡 銅鏡 土器 鉄器(鉄鎌、ヤリガンナ、鉄斧など)
	砂部遺跡 (弥生時代前期から古墳時代後期までの遺跡)	土器 石器(滑石製勾玉双孔円板等) 金属器(銅鏡)	古墳時代 中期	行者塚	埴輪
	溝之口遺跡	土器(完全な壺 タコ壺等多数) 石器(石斧、石鎌、砥石等)		北大塚	埴輪
弥生時代 中期	平山遺跡	土器	古墳時代 後期	平荘湖地内古墳群	鉄器(甲、鉄刀、鉄鎌 馬具(鐙、轡、杏葉)釘等) 装身具(耳飾、指輪、玉類、金鈴等) 須恵器(双聯、子持壺、高環等) 埴輪 土師器など多数
弥生時代 後期	円長寺遺跡	土器 石器(石斧など)		日岡山古墳群他	須恵器 土師器 埴輪等
	猫池周辺遺跡	土器 石器(石槍)		奈良時代 西条廃寺その他	須恵器(大型の壺)瓦
	大日山遺跡	土器(大型の壺)			
	北在家遺跡	土器			
	野村遺跡	土器			

『郷土のおはなし』第3集、発行

市教育委員会では、昭和48年度から郷土の民話や伝説、民謡などを収集して『郷土のおはなし』と題して、これまで第1集(旧加古川町、氷丘地区、神野町、別府町)、第2集(鳩里地区、野口町、八幡町、平荘町)を発行してきました。

本年度は、残りの平岡、尾上、上荘、東神吉、西神吉、米田の各町の資料を調査収集しておりましたが、このたび、これを第3集として発行いたしました。

こうした昔から伝わるおはなしやうたには、私たちの祖先の生活がしのばれ、ほのぼのと心なごむ内容があります。ご希望の方には実費で有償頒布いたします。なお、第1・2集も残部がありますので、一緒に活用していただければ幸いです。

この第3集で、一応当初計画した市内全域の調査と

資料の発行は終るわけですが、まだ埋れた話や唄などがあろうと考えられますので、第1集から3集までに収録されたもの以外の話や唄をご存じの方がございましたら、教育委員会文化課(加古川市加古川町寺家町12-4 電話 23-3845・3846)までお知らせ願えれば幸甚に存じます。

いずれ続編の発行を考えておりますので、よろしくお願い申しあげます。

第1集(旧加古川、氷丘、神野、別府各町) 実費 600円

第2集(鳩里、野口、八幡、平荘各町) 実費 500円

第3集(平岡、尾上、上荘、東神吉、西神吉、米田各町) 実費 600円

頒布先 加古川市教育委員会文化課

加古川市加古川町寺家町12-4

TEL 23-3845・23-3846